

脳活性化ゲームの紹介

岩月脳活性化デザイン研究所 岩月和人

- ・高齢者にとっては、身体の健康維持と共に脳の老化を防ぐことが不可欠と思われませんが、脳活性化ブームになってきて、脳トレばかりとはいえ、適切な脳刺激方法の開発は未だ遅れていると感じます。
- ・脳活性化ゲームは、高齢者が大勢で遊びながら脳を刺激・活性化することを目的としてデザインしたものです。一部は脳の機能が低下した人の脳リハビリや、幼児の知育にも応用していただいています。

脳活性化ゲームのデザイン開発・普及の経緯

- 1) H7年に、当時の浜松医療センター金子副院長の「ボケは早期に発見し脳リハビリをやれば治る」という新聞記事を見てビックリし、デザイナーの立場から何か出来ないかと考えたのが開発のきっかけです。
- 2) そこで、教鞭を取っていた浜松職業能力開発短期大学校産業デザイン科の学生と一緒に、9年間にわたりボケ予防・脳活性化ゲームのデザインに取り組み、幾つかのゲームをデザイン開発しました。
- 3) 開発にあたっては、二段階方式による認知症予防活動を全国的に推進するエイジングライフ研究所の指導の下に、各地の保健師などの意見を聞きながらデザイン・改良し、量産化・普及をしてきました。
- 4) 平成28年末現在、北海道から沖縄まで全国200ヶ所を超える自治体の高齢者教室等で、何らかのゲームを使用して頂いております。その他、福祉施設や幼稚園、個人でも数多く使って頂いております。
- 5) 私自身、巡業と称し北海道から九州まで80余の自治体の保健師が主催する高齢者教室などを回り200回以上の現地試行してきましたが、同類が少ないこともありどこでも好評でした。
- 6) この脳活性化ゲームは日本リハビリテーション工学協会主催の福祉機器コンテスト2003機器開発部門（企業・研究グループの部）優秀賞と、中部デザイン団体協議会優秀賞を受賞しました。

脳活性化ゲームのデザイン開発方針

- ・脳活性化ゲームは、高齢になると先に衰えてくる性質を持つといわれる前頭前野を刺戟し活性化することを主眼とし、これにより社会適応力を維持・強化することを意図してデザインしていますが、高齢化による問題点と各ゲームのねらいとの関係をまとめると、以下になると考えます。

[高齢化してくると]

[脳活性化ゲームのねらい]

脳が前頭前野から劣化 \longrightarrow 前頭前野を刺戟・活性化し維持・強化
 だんだん社会生活が難しく 社会生活適応力の維持・強化

- ・意欲・積極性の低下 \longrightarrow ① 右前頭前野刺戟で感動、ヤル気に
- ・行動/判断スピードの低下 \longrightarrow ② 皆のペースでテキパキ判断し進める
- ・推理・洞察力などの低下 \longrightarrow ③ 直感的でなく理屈で判断し進める
- ・神経集中・注意分配力 \longrightarrow ④ 複数のことに注意分配しないと
 キャパシティの低下 上手くやれないゲーム
- ・人付き合い 協調性 \longrightarrow ⑤ コミュニケーション力の強化
 思いやり？ の人も ⑥ 思いやり、協調性 抑制力の強化

- その他の脳の劣化 \longrightarrow
- ⑦ 記憶・保持力・想起力の強化
 - ⑧ 見当識の強化

a 唱歌 カルタ	b 言葉 神経衰弱	c 十二支 ビンゴ	e しりとり ブロックくずし	d うしろく じゃんけん将棋	f じゃんけん ペタンコ	g ボール投げ 3並べ
◎		◎			◎	
◎	◎	◎	◎		◎	◎
		◎	◎	◎	◎	◎
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
◎	◎	◎	◎		○	◎
					◎	◎
◎	◎		◎			
○	○	○	○	○	○	○

その他の

デザイン上の留意点

- ・大勢でワイワイ一緒にやれるものを重視。
- ・体も使い運動で、より楽しく 床ゲーム
- ・偶然にうまくいくという要素を少なく、がんばっただけ報いられる。
- ・子供の遊びでなく、高齢者がプライドを持って使えるモノ。